

調査実施要領にありますように、本調査結果は、学力や学習状況の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面ではありますが、学校として以下の結果について真摯に受け止め、子どもたちの学力並びに学習意欲の向上に努めてまいります。保護者のみなさんのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

【学力状況調査】 <学習指導要領の領域の平均正答率の状況>

【国語】	【数学】	【理科】
全体的な状況 上記6つの領域の平均正答率が、大阪府と全国を下回る結果となりました。中でも、読むことに関する事項は7ポイント、書くことに関する事項は9ポイント低い結果でした。 成果 言葉の使い方に関する事項については、大阪府と全国を上回る結果となり、言葉に関する基礎的な力は身につけていると考えます。また、話すこと聞くことに関する事項も高い正答率であり、日頃の授業の中に生徒間交流を取り入れている成果が出ていると考えます。 課題 目的や意図に応じて自分の考えを書き表す問題において、大きな課題がみられました。また、文章の中から必要な情報を見つける問題においても正答率が低い結果となりました。 課題解決に向けた取組み 文章の中から必要な情報を見つける力をつけるため、キーワードに線や印をつけたり、メモを取る習慣をつけることを意識した授業に取り組みます。また、低学年から読みきかせや読書を通して文章にふれる機会を増やし、語彙を増やしていきます。	全体的な状況 上記5つの領域の平均正答率が、大阪府と全国を若干下回る結果となりました。中でも、変化と関係に関する事項は7ポイント、低い結果でした。 成果 数と計算の事項において、分数の加法を問う問題の正答率が全国を6ポイント上回る結果となりました。朝学習などを通して、計算の反復練習の成果が出ていると考えます。 課題 数と計算の事項において、全国平均を上回るものもありましたが、数直線上に示された数を分数で書く問題に大きな課題が見られました。また、立式と共に自分の考えを示す問題に課題が見られました。 課題解決に向けた取組み 授業の中で自分の考えを書く活動を取り入れながら交流を進め、学級全体で練り上げる時間を大切にしていきます。また、公式を暗記するだけでなく、仕組みについて理解し、説明をする力をつける授業を意識していきます。	全体的な状況 上記4つの領域において、エネルギーの事項は0.3ポイント、生命の事項は3ポイント全国を上回る結果となりました。また、粒子の事項は、4.7ポイント、地球の事項は3.7ポイント低い結果でした。 成果 コイルの巻き数による変化を答える問題や、粒子の大きさによる水のしみこみ方を答える問題など、実験を通して経験したことは全国平均を大きくこえる結果となりました。体験することを大切にする授業づくりの成果と考えます。 課題 水の蒸発について考える問題の正答率が全国平均を大きく下回る結果でした。また、乾電池のつなぎ方に関する問題に関しても誤答が多くみられる結果でした。 課題解決に向けた取組み 実験・観察を通して、成功例だけでなく失敗例もあえて体験することにより、その原因をしっかりと考える時間をつくります。また、自分なりのまとめを大切に、自身の考えを交流する時間をつくり知識を定着させます。

【学習状況調査】

状況が良好な主な項目	本校	府	全国	課題を残した主な項目	本校	府	全国
これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありましたか	86	77	81	学校に行くのは楽しいと思いますか	80	85	87
地域の大人に、授業や放課後など勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか	42	41	39	分からないことやくわしく知りたいことがあった時に、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	75	81	82
自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成することができると感じますか	86	81	82	授業の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を勉強のために使っていますか	13 (2時間以上)	19 (2時間以上)	20 (2時間以上)
全体的な状況 保護者の方や、地域の方の協力もあり、本校の児童は充実した放課後の時間を過ごすことができています。また、日々の学習の中でICT機器を当たり前のものとして活用することが定着し、低学年の段階からタイピングやタブレットを使った発表などに抵抗感なく取り組むことができています。今年度は、ICTに関する質問が多くありましたが、使い方に関して前向きな回答が多くみられました。 成果 一人一台タブレットが与えられるようになってから、どの学年でも積極的にタブレットを使った学習の取り組み方を模索してきました。その結果、一年生から日常の中にタブレットが溶け込み、様々な活用方法を身につけることができています。また、学校での生活指導と家庭の協力によって、規則正しい生活を意識している児童が大多数を占めることができています。				課題 友だちとの関係性や、普段の生活の中で幸せを感じることができているという質問に肯定的に答える児童が多い中で、学校に来るのが楽しくないと答えた子が2割ほどいました。また、自分から学び方を考えたり工夫したりすることが苦手な児童が多いという課題が見えました。ICTに関しては、使い方は熟知しているものの、それを家庭学習につなげるという意識まで持っていないということが分かりました。 課題解決に向けた取組み 普段の学校生活の中で、自分の居場所を確立し、安心感を持って過ごせる環境を用意する必要があります。そのために、今後も学校と家庭が同じ方向を向き一貫した指導を行うことが重要だと考えます。また、教えられたことだけをするのではなく、ICTなどを活用しながら、自身で学びを深める姿勢を身につけることの必要性を伝えていきます。学校と家庭が、今後も密に連携し、両面から児童をサポートしていきたいと考えています。			

○保護者のみなさんへ(全体を通じて)

今年度の全国学力・学習状況調査における、国語、算数、理科および学習状況調査(アンケート)の結果を受けて、本校の教育活動の更なる伸長と改善に全教職員で取り組んでいきます。具体的には、子どもたちが主体的に思考し、判断し、表現する力を伸ばしていけるような授業展開や学習活動を継続して進めていくとともに、地域や社会とつながる取組みから多様なコミュニケーション能力を伸ばしていきます。学校教育の主役は子どもたちです。子どもたちを取り巻く昨今の状況をふまえ、今後、どのような力が求められていくのか、また、学校教育の中で子どもたちにその力をどのように付けていくのかを考察し、教育実践を行っていきます。さらに、子どもたちがつながり、声をかけ合う、助け合うといった「集団づくり」にも注力し、意欲や思いやりの心を育み、子どもたちにとって魅力ある学校、安全・安心な学校をめざしていきます。保護者の皆様方におかれましては、引き続き本校教育活動へのご理解・ご協力のほどよろしくお願い致します。